

経営(継承)のツボ

理念



転期に立つ経営者の資質の鍛え方⁵⁹

明哲保身

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に「早川浩士の常在学場」(簡井書房)、『介護人財創造塾』(簡井書房)、『介護保険改正に勝つ!経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

http://www.hayakawa-planning.com
ブログ: http://ameblo.jp/hayakawa-planning/

「既ニ明ニシテ且ツ哲ナレバ、以テ其ノ身ヲ保タン」

「人が嫌がることを進んでしなさい」
この言葉を耳にしたら、何を思い浮かべるだろうか?

学校の先生から聞いたという男子生徒は、先生の教えを守るべく女子生徒のスカートをまくって歩いたという、ある小学校での実話がある。

「人が(するのを)嫌がることを」との意味を縮めて話した先生側の表現力にも問題がなくはない。

伝えたい意図が省略された結果、生徒は、「人が(されて)嫌がることを」と勘違い(勝手に解釈)してしまったのであろう。

ものの道理をわきまえた賢明な人は、物事を適切に処理することができるので、身を誤ることがないという意味を持つ「明哲保身」は、『詩経』の「既ニ明ニシテ且ツ哲ナレバ、以テ其ノ身ヲ保タン」が出自である。

「明哲」は、賢くて物事の道理に明るいこと。また、その人やその様子を指す。

「保身」は、身を安全に保つことだ

が、本来の意味を知らないで自分の身の安全だけを考え、要領よく生きる人を軽蔑する気持ちで使っている人も少なくない。

どちらにも似たところがある。

「有言実行 か・き・く・け・こ」

近頃はやりの歌で「トイレの神様」がある。8分30秒と長い。

小3の頃、おばあちゃんと一緒に暮らしていたという少女。

しかし、毎日のお手伝いで、トイレ掃除だけは苦手だった。

そんな孫娘に、

「トイレには、キレイな女神様がいます。だから毎日、キレイにしてあげると、女神様みたいにべっぴんさんになれる」

と諭されて教わったおばあちゃんの言葉が、幼心に焼きついたのである。「べっぴんさんになりた」というフレーズがいく度となく登場する歌を、塾で話題にしたときのことである。

この曲を聞いたことのある経営者から、小2の自分と母とのエピソードが語られた。

「人が嫌がるトイレをきれいにしたら美人になるよ」と小さい頃から聞かされて育ち、学校では率先し

てトイレを掃除していた頃を思い出してしまい、懐かしさが込み上げてきたという。

そんな自分が、わが子に対しては「人の嫌がることを進んでしなさい」と、口先で指示を飛ばすことしかしていないとのこと。

事業所でも同じ。

子どもや職員に手本を示していない自分の姿に気づかされたという反省の弁だった。

「べっぴんさんになりたい」という人がいたら、今からトイレ掃除を始めるのも遅くはない。

ただし、べっぴんさんになるには、このころの垢を取り除くことを怠ってはならないという戒めが含まれていることを忘れてはならない。

「有言実行 か・き・く・け・こ」というフレーズがある。

一、か(やることは)紙に書く

二、き(やることは)希望を持つ

三、く(やることは)口にする

四、け(やることは)決意し継続する

五、こ(やることは)行動に移す

三日坊主となりがちな人は、これを機に試してみることだ。

「トイレの神様」から学んだことが伝えられる力を養いたい。

*「トイレの神様」 作詞: 榎村花菜・山田ひろし 作曲: 榎村花菜 編曲: 寺岡呼人